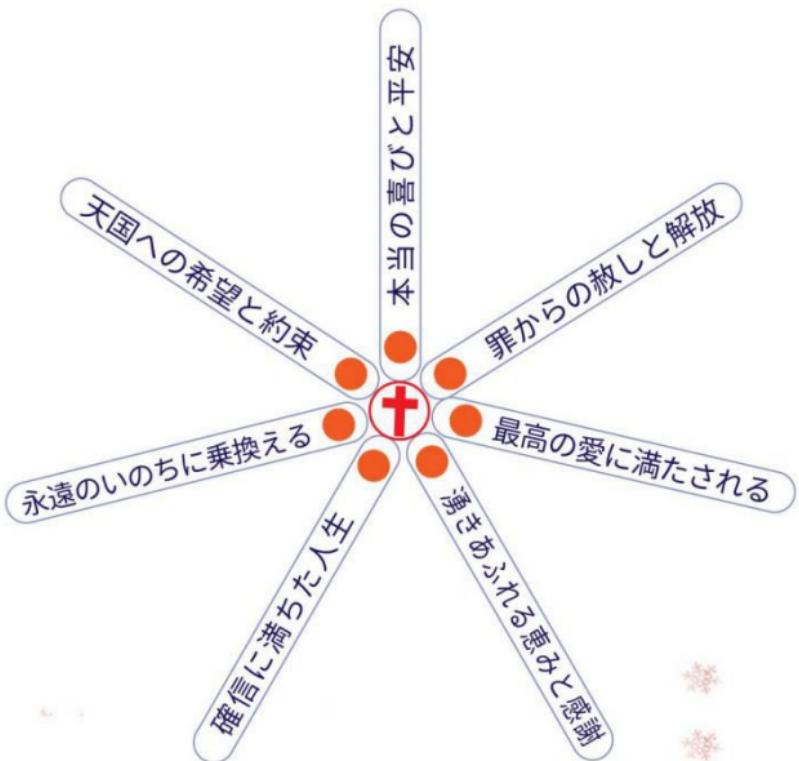


イエス・キリストにある

# 7つの祝福



## イエス・キリストにある7つの祝福

JOY CHURCH

## 目 次

|                      |    |
|----------------------|----|
| 【はじめに】 「安らぎ（救い）への招き」 | 5  |
| 【1】 「本当の喜びと平安」       | 13 |
| 【2】 「罪からの赦しと解放」      | 15 |
| 【3】 「完全な愛に満たされる」     | 19 |
| 【4】 「湧きあふれる恵みと感謝」    | 25 |
| 【5】 「確信に満ちた人生」       | 30 |
| 【6】 「永遠のいのちに乗り換える」   | 34 |
| 【7】 「天国への希望と約束」      | 38 |



## 現代人の孤独

複雑な社会を生きていく現代人は、仕事や家庭、学校でのストレス、人間関係などで疲れ果ててしまい、生きていく理由はもちろん、喜びや平安を失ったまま、一日一日を生きてています。コンピューターや携帯と接する時間が増えるかわりに、人同士のコミュニケーションが薄くなり、まさに群衆の中で孤独を感じている人が多くなっています。フェイスブックやラインなどのSNSの拡大は、このような時代背景を反映しています。つまり、他人との絆を確認することで孤独から解放され、心に空いた穴を満たそうとする人間心理の表れではないでしょうか。しかし、それでも私たちの心にある穴、虚しさは解決できません。

## 重荷と苦しみ

イエス様は、私たちをご自分のもとに来るよう招いています。そうすれば、真の安息と安らぎを与えると約束しています。

**マタイの福音書 11章 28節** すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

この言葉のように、現代人には負っている重荷が多くあります。そして、私たちはこの重荷による大変な苦労と苦しみを耐えながら、毎日を生きています。しかしその反面、どこにもその重荷を下ろすところがなく、心はさまざまな傷によって悲鳴を上げているのも現実ではないでしょうか。人によっては、家族にも友人にも、簡単に自分の痛みを分かち合うことはできないのかもしれません。そうすれば、愛する人々にまで重荷を負わせるはめになるからでしょう。それで、一人で寂しく歯を食いしばって涙を飲みながら、何もなかったかのようにふるまうのです。もし自分の痛みを自由に打ち明け、力をもらえる存在がいるとしたら、それは最高の励みとなるでしょう。だから、人々は自分の痛みを分かち合える存在を探しているかもしれません。しかし、人に頼ることの限界を感じる人々は、さらに神様という絶対者の存在に気付くようになるでしょう。

### **すべての人間に共通する原始的重荷**

先ほど話したように、すべての人間には、自分で知らず知らずのうちに負っている重荷が、数えきれないほどあり

ます。とくにその中には、すべての人に共通する最も原始的な重荷があります。それは、罪と死、そして死後の不確実性であり、これらは人間の力では絶対解決できないものです。聖書は、この罪について次のように述べています。

**ローマ人への手紙 3章 23節** すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず。

すべての人は一人も例外なく、「罪」という靈的な病にかかっていると言っています。そして、「罪」によって神から分離された人間は、神の栄光の救いに至ることができず、苦しんでいると書かれています。この罪というものは、私たち人間にとて多大な苦しみをもたらす「重荷」なのです。

**詩編 38章 4節** 私の咎（とが）が、私の頭を越え、重荷のように、私には重すぎるからです。

これを書いたダビデという人は、自分が犯した罪は耐えがたい重荷だと告白しています。しかしながら、罪の重さを認識できない人も多くいます。靈的な感覚が死んでいるか、まひした人は、罪の重さを感じることができません。だといって、罪がないとか、将来その苦しみが来ないという意味でもありません。

## 死んでも終わらない罪の重荷

一方、苦しみにもがく人々の中には、死ねばすべての重荷から解放されるだろうと思い込み、間違った選択をすることもあります。しかし、聖書は決してそうではないと言っています。つまり死によってすべてが終わり、苦しみや重荷が一切なくなるということはありません。死さえも、私を罪の重荷から解放することはできないということです。聖書は、人間の死とその後何が起こるかについて、次のように証言しています。

ヘブル人への手紙 9章 27節 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように

私たちすべての人間には、避けられない2つの運命があります。一つはすべての人間は死ぬこと、もう一つは死後さばきを受けることです。すなわち、死はすべての終わりではなく、またすべての苦しみからの解放でもないということです。もう少し詳しく説明すると、死後さばきを受け、天国や地獄のどちらかで永遠を送らなければならないという話です。幸いにも天国であれば問題はありませんが、さばきの結果、永遠の地獄の滅びに入るという話になると、話は変わります。死によってすべての苦しみから解放されるだろうと、思っていた人には受け入れ難い事実で

す。この世でも重荷に苦しんでいたのに、死後はこの世とは比較できない、過酷な苦しみや痛みをさらに受けなければならぬという話は、大きな衝撃であるに違いありません。

## キリストの十字架の死によって得られた真の安らぎ

ところが、イエス様はこのような私たちにマタイ 11 章 28 節で、希望のメッセージを述べておられます。あらゆる種類の重荷はもちろん、自力では解決できない罪の重荷からも、私たちを解放してくださるという約束です。つまり罪の重荷、死と死後のさばきやその結果の刑罰という、耐え難い苦しみを受けなければならぬ私たちに、真の自由と安息を与えると宣言しています。そのため、イエス様は自らご自分のいのちを犠牲にし、私たちにその方の真実と愛を表してくださいました。

ローマ人への手紙 5 章 8 節 しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

イエス様は罪の重荷によって苦しんでいる私たちのために、十字架で私たちの身代わりに罪の刑罰を受け死なれた

のです。それによって、私たちを罪による、今と死後の苦痛から解放してくださったのです。すなわち、死後受けなければならぬさばきと罰、地獄での苦しみから私たちを解放し、救いの天国へ移してくださいました。これこそ、真の安息と自由なのです。

**コリント人への手紙第一 15章 3節** 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、4 また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと

イエス・キリストは、前述の聖句にあるように、私たちを救うために十字架で死なれました。しかし、イエス様は死んで終わったのではなく、三日目に復活することで、他の神々とは次元が全く違う、全知全能の愛の神であることを証明されました。そのように、人間は死で終わることではなく、その後の復活によって永遠を生きる存在なのです。

## **イエス・キリストの招き**

マタイ 11章 28節で、イエス様は私たちを、ご自分の驚くべき祝福と救いに招いています。それは、イエス様ご自身のもとに来るようという呼びかけです。その招きに応

じると、イエス様は私たちに安らぎと真の安息という救いを与えると約束しています。それでは、私たちはどのようにして、イエス様のもとに行くことができるでしょうか。結論から言うと、それは十字架であなたの罪を背負って、あなたの身代わりとなって死なれたイエス様を、あなたの罪とその刑罰からの救い主として、自分の心の中に受け入れることです。そうすれば、あなたには罪やその罰、苦しみからの赦しと解放が与えられるのです。それでは、イエス様を救い主として心の中に受け入れた人々に、どのような祝福が約束されているか考えてみましょう。もちろん、多くの祝福がありますが、ここでは7つの祝福を紹介したいと思います。

- ・ 本当の喜びと平安
- ・ 罪からの赦しと解放
- ・ 完全な愛に満たされる
- ・ 湧きあふれる恵みと感謝
- ・ 確信に満ちた人生
- ・ 永遠のいのちに乗り換える
- ・ 天国への希望と約束

これらの祝福は、イエス・キリストを救い主として受け入れた人に与えられる、この世では経験できない特別な贈

り物です。プレゼントは、ただ感謝して受け取るだけで自分のものとなるのです。代価を支払って買う必要はありません。特に救いというこの贈り物は、あまりにも尊いものなので、お金や行いに換算することができないのです。結局、それはプレゼントとしてしか受け取る方法がないということです。

※ここで、一つだけ注意していただきたいことがあります。この書で言う神とは、聖書で語られている宇宙や人間を造り、世界の歴史を導いている全知全能の神のことを示しています。日本でいう八百万の神とは違う神です。

## ① 本当の喜びと平安 · · · ·

ヨハネの福音書 14章27節 わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたに平安を与える。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れではありません。



この世では、平安と喜びを持って生きることが容易ではありません。私たちは毎日、いろいろな不安、ストレス、葛藤や緊張との戦いを強いられています。そればかりか、厳しい競争、病気や

事故、災害、殺人、後を絶たない戦争やテロなどといった恐怖の中で生きている人も多いのです。何のストレスもなく心穏やかに過ごしている方は、少ないのでしょうか。つまり、現代は心が悲鳴をあげている時代とも言えるでしょう。聖書には、「終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい」（II テモテ3:1）という警告があります。まさに、今がそういう時代なのです。しかし、イエス・キリストは、私たちにこの世

のものとは違う、本当の平安を与えると約束しています。その平安とは、この世のさまざまな試練や苦しみに勝るものであり、いつまでも消えない真の力なのです。

**ピリピ人への手紙 4章 6節** 何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

ここでは、「人のすべての考えにまさる神の平安」と表現しています。この世のお金や快樂、名誉などから来る喜びは、いつの間にか消えてしまう一時的な安心に過ぎないものです。人間は、自分の力で本当の平安を保つことはできません。神は、この宇宙やあなたを造り、あなたのためにはいのちまでも十字架で捨ててくださった、力と愛に満ちたお方です。この神によってのみ、いつまでも続く真の喜びに満たすることができます。あなたのうちにこんなに素晴らしい方がおられるならば、あなたはどんなときにも揺らぐことなく、真の平安の中で生きることができるでしょう。罪や惡、暗闇、不安や恐れから、真の平安と喜びへと導かれるのです。

## 2 罪からの赦しと解放

エレミヤ書 17章9節 人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう。



このみことは  
は、この世で一番  
腐っているのが、  
人間の心だと指摘  
しています。その  
腐敗の種は、人間  
の心の中にある罪

性（ざいせい：罪を犯すしかない人間の性質）なのです。この罪性という罪の種からさまざまな悪、例えば、嘘、悪口、裏切り、不正、暴力、嫉妬、比較、劣等感、不安、殺人、戦争、死などが生じ、暗闇の中で恐怖や苦しみに支配される、罪の世界が始まってしまうのです。そのため、人間の心を罪の工場に例える人もいます。しかし、人間の中に良い面がまったくないという意味ではありません。

聖書には、人間は誰ひとり罪から自由になることはできないと書かれています。また、あなたの罪は、後になって

必ずあなたに報復する、残忍なものでもあることを認識する必要があります。

しかし、キリストの十字架の福音には、真の赦しとそれに伴う解放、自由の喜びがあります。次のみことばにあるように、私たちはイエス・キリストの血、つまり十字架での死によって、罪が赦されるようになりました。それは、あなたの罪の刑罰を、キリストが前もって十字架上で身代わりに受けてくださったからなのです。

**エペソ人への手紙 1章 7節** 私たちは、この御子のうちにあって、御子の血による贖い（あがない）、すなわち罪の赦しを受けているのです。これは神の豊かな恵みによることです。

人間が自力で解決できない難問の一つが、罪の問題です。次の聖書のことばは、人間の罪がイエス・キリストの十字架上で死、という尊い代価によって解決され、消される（赦される）という幸いについて語っています。

**ローマ人への手紙 4章 7節** 不法を赦され、罪をおおわれた人たちは、幸いである。

私たち人間は、自由に見えても、実はさまざまなものによって縛られています。真の自由を感じて生きることは難

しいものです。具体的には、罪による良心の呵責（かしゃく）と不安、病気や死への恐怖、自分の存在や将来への不安、お金や快樂への貪欲、さまざまな迷信などにより、自由とはいえ、実は不自由な生き方をしているのです。しかし、以下の聖句から、聖書が言う真理は真の自由を与えることであることがわかります。イエス・キリストを通して自由と解放を得ることができるのは、本当に素晴らしい恵みです。

**ヨハネの福音書 8章 32節** そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。

一方、人間の赦されていない罪はもちろん、他人の間違いや罪を赦さない頑（かたく）なな人間の心は、自分の魂にとって猛毒のようなものです。しかし、赦されたことのない人間、つまり赦しの恵みを受けたことのない人が、他人を赦すことは非常に難しい問題です。私たちはまず、イエス・キリストを通して、自分の罪から赦される経験をする必要があります。そして今度は、その赦された恵みと愛をもって、他人を赦すことができるのです。あなたの罪を背負って十字架で死んでくださったキリストを、あなたの罪からの救い主として心に受け入れるだけで、あなたは罪から赦され救われるようになると、聖書は語っています。

すでに犯してしまった罪、これから犯す罪の解決のための、一番良い方法は何でしょうか。もちろん、自分で罪の償いや罰を受けることも一つの方法ですが、しかしそれが決して良い解決策だとは思いません。罪を犯すしかない人間の弱さや、すでに犯してしまった罪などを、自ら解決できる人間は一人もいないと、聖書は教えているからです。ところが、もしあなたが自分の罪による刑罰を受けることなく、過去、現在、未来のすべての罪を、きれいに赦してもらえる道があるとするならば、それはなんと嬉しくて幸せなことでしょう。

そうはいっても、罪には刑罰があり、その罪を解決するためには、誰かがその代価を払わなければなりません。それが神の正義なのです。そこで、イエス・キリストがあなたのために、罪の代価としてご自身のいのちを捧げ十字架で死なれました。それにより、あなたの罪が完全に償（つぐな）われ、赦されるようになりました。神は、なんと素晴らしいことをあなたのためにしてくれたのでしょう。ここに、神様の究極の愛があります。

**ヨハネの福音書 3章 16節** 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

### ③ 完全な愛に満たされる・・・



キリストの十字架の死による救いとは、この世には例がなく、聞いたことも、見たこともないような最高の愛の物語です。それは、次の聖句にもあるように、神様が私たちを愛するが故に、イエス・キリストを世の罪人のために十字架の死にかけてくださったという、人類最高かつ究極の感動的な愛なのです。しかし、そのような愛の神様に対し、私たち人間は、数々の罪や悪を行い、神様から離れ、さまよっています。

**ローマ人への手紙 5章 8節** しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

このみことばによると、キリストは、立派な人や罪のない人、救われるのにふさわしい人のために十字架で死んだ

わけではなく、罪人で弱い人間のために死んでくださったと書いてあります。ここに神の素晴らしい愛を見る事ができます。人間は、いつも本当の愛を探し求めています。どうすれば、私を本当に愛してくれる人に出会えるかを考え、探しています。しかし、そのような愛に出会うことは、容易ではないのです。

愛ということばは、ギリシャ語で四つの意味に分けて使っています。エロス（自己中心的な愛）、アガペ（利他的な愛）、フィレオ（友情）、ストールゲ（親子のような本能的な愛）がそれです。日本語では、これら全部を「愛」という同じ単語で表現していますが、実際には、愛というのはその動機によって、まったく違うものなのです。つまり、行動の動機が自己中心なのか（エロス）、他人中心（アガペ）なのかによって、愛の本質が変わってしまうということです。この世では、アガペ（他人中心）のような愛は非常に少なく、エロス（自己中心）の愛が氾濫しており、多くの人は、その区別ができずに惑わされています。表面的には「愛」ということばを使っていても、実際には、その本質はエロスである場合がほとんどです。つまり自分を満足させるために他人を利用する、愛という名の詐欺なのです。

アガペとエロスは、日本語では同じ「愛」ということばを使いますが、本質は正反対であり、気をつけるべきです。なぜなら、この区別ができていないと愛に翻弄（ほんろう）されてしまうからです。人間という存在は、ついつい自分のために他者を利用する、エロスの愛に慣れています。それは、人間というものが、その本質は利己的な存在であるからで、まさに「罪人である」という聖書のことばそのものではないでしょうか。したがって、私たちは自分の限界や弱さ、エロスという自己中心的な愛による危険性を知った上で行動する必要があります。同時に、私たちはアガペの愛を目指して生きるべきです。

イエス・キリストの愛は、アガペの愛の原点であり、頂点なのです。罪深い人間を無条件に愛し受け入れ、その罪を背負って十字架で死んでくれた愛です。他者のために自分を犠牲にするという、アガペの愛の頂点にイエス・キリストの十字架の死があるのです。敵のように振る舞う人間の罪の贖いと救いのために、イエス様は自分のいのちを惜しまずに対し出してくれました。

この愛に見習おうとするところが教会なのです。限界はあるものの、眞の愛、アガペの愛を何とか実践しようとする教会こそ、厳しくて希望のない社会、罪や悪に満ちた時

代における最後の砦（とりで）であり、頼れる場所ではないでしょうか。社会に広がっている宗教への不信感、偏見、先入観がキリスト教にも及び、多くの人が真の愛に触れる機会を失っていることは、残念でなりません。あなたも、ぜひ教会に立ち寄ってみませんか。プロテスタントの教会に行ってみると、きっとあなたの先入観とは違う世界があることでしょう。

世界のどの宗教を見ても、その宗教の頂点にいる存在が、罪深い人々のためにいのちを捨てたという話はキリスト教以外にありません。これは、その宗教に真の愛があるかどうかのバロメーターです。キリスト教、聖書の中身を一言で表すと、「愛」と言えます。つまり、キリスト教は愛の宗教なのです。聖書は、神から人間に対するこの世にない最高の愛、究極の愛が現れた感動的なラブストーリーだからです。

ある人は、この世の愛を大きく3つに分けて話します。英語でいうと、条件付きの「If の愛」、資格付きの「Because の愛」、無条件の「In spite of の愛」がそれです。あなたが私を愛してくれるならば、あなたがこうしてくれるとならば、あなたがお金や物をくれるならば、私もあなたを愛するという、条件付の愛が「If の愛」です。一

方、あなたは頭がいいから、きれいだから、格好いいから、お金があるから、権力があるから、私はあなたを愛するというような、理由や資格が付く愛が「Because の愛」です。しかし、イエス・キリストのアガペの愛は、それらとは違う「In spite of の愛」です。「条件や理由、資格がないにもかかわらず」の愛であり、神様からの方的な愛です。イエス・キリストは、何の見返りや条件も求めず、自分のいのちを捨てて、私たちを救ってくださった、無条件の愛の救い主です。

人は誰しも、自分を認めてほしい、愛してほしいと願うものです。子ども、大人、老人、男女を問わず、愛を渴望しています。もし、誰にも認められず、愛されることができないと、心がゆがんでしまうのです。しかし聖書では、人間を造った神が私たち一人ひとりを尊い存在として愛し、認めてくださると言っています。そこに神の無条件の愛があるのです。人はありのままの自分を承認されて初めて、人間らしく生きることができます。しかし、今の社会は人をありのままで承認するよりは、さまざまな条件や比較によって優劣を付けてしまいます。このような状況では、疲れるばかりか、生きる意味さえ見出すことが難しいのです。

**イザヤ書 4 章 4 節** わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。だからわたしは人をあ

あなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにするのだ。

しかし、神様は一人ひとり目的や意味をもって造られたのです。違いはあっても優劣はなく、尊い存在であると書かれています。人は、自分を認めてくれるところにいる時に、一番幸せを感じるのです。聖書の神、またあなたを、十字架の死をもって愛してくれるイエス・キリストこそがその方です。教会ではそれを大前提にして、愛を伝えようとしています。

## 4

## 湧きあふれる恵みと感謝・・



### エペソ人への手紙 2章8節

あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出た

ことではなく、神からの賜物（たまもの）です。9行いによるのではありません。だれも誇ることのないためです。

イエス・キリストの十字架の福音は、神様の無条件の慈悲と恵みに基づいています。恵みは、救いや罪の赦しを受ける資格のない人間に、無償で与えられる神様からの最高の贈り物です。その尊い恵みを受けた人の心の中には、感謝と同時に温かい感動が流れます。もちろん心の傷も自然に癒されます。この恵みは、あなたの状態や行動に関係なく、神から注がれる一方的な祝福です。

エペソ2章8,9節の言葉は、わたしたちが罪から赦され、救いの恵みを受けたのは、わたしたちの善行や努力、人格などに起因したものではないと言っています。イエス・キリストがあなたの罪を身代わりに背負って、十字架

で死んでくれたという事実を信じて、イエス・キリストをあなたの救い主として受け入れるだけで、罪の赦しと救いを無償で受けるようになります。 罪深い私たちにとつて、本当に大きな恵みであり感謝です。 これは条件なしに施される神様の大きな愛によるものです。

多くの宗教が善行と徳を積み上げなければ、救われることができないと教えていますが、聖書はそれを強く否定しています。 善い行為と徳が悪いのではなく必要なものですが、行いによって救われることのできる完璧な人間は、一人もいないと聖書ははっきりと語っています。 もし人間に自分を罪と死から救う善なる能力があったなら、最初から罪に陥ることはなかったでしょう。 キリスト教で語る良い行いは、救いの条件ではなく、救われた人に現れる自然な結果に過ぎません。 救われる目的で善行をするのではなく、自分の罪が赦され、救われたことに対する感謝と報いの心で自然に行なわれる善行こそ、人々にも神様にも喜ばれるものではないでしょうか。 ただ生きるだけでも疲れ、大変な人々に救われるために善行まで強要すれば、心の荷物が増えるだけで、決して救いと癒し、平安と赦しの喜びを味わうことはできないでしょう。

また、ある人は、神様が自分に何かを求めるだけ、自分を支配しようと思い込んでいて、なかなか神様との出会いを躊躇することもあります。しかし、神は私たちから何かを必要とする不完全な存在ではありません。むしろ神様は私たちの必要を満たすために、自分のすべてを惜しみなく与えてくださる愛と恵みに満たされた方です。完全な愛の神は、自分のために人間を決して利用しません。しかし、人間が生み出したあらゆる種類の神々は、人間の恐怖と弱さを利用して人間を支配し、不幸に追い込んでいます。このような不完全な神にいくら仕えるとしても、愛や恵みを受けることはできません。むしろサタンと悪魔の捕虜になってしまい、人生はより難しくなり、最終的には完全な破滅、すなわち地獄に捨てられてしまうのです。

**ローマ人への手紙 8 章 32 節** 私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまず死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに惠んでくださらないことがあります。

先程お話しした通り、イエス・キリストは私たちを罪から救うために、自らの尊い命さえ惜しまず、十字架上で捨てたことで、あなたへの愛を示しました。しかし、神の愛はここで終わりません。これは始まりに過ぎません。この神はいつも私たちの祈りに答え、私たちの必要を満たし

てくださる天の父なのです。弱い人間の物質的、精神的、靈的な必要を満たすために、ご自分の全てを惜しまない、愛に満ちた方です。この真実で愛にあふれ、慈悲に富む神からの助けと恵みのおかげで、私たちには感謝も溢れ出るようになります。感謝は、神様とイエス様から与えられる恵みへの反応と言えます。私たち信じる者には感謝できる理由が溢れています。

**ローマ人への手紙 8:28** 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。

神はいつもあなたと共におられ、助け、現在の状況を制御し、そして最終的にはあなたを最善の方向に導くお方です。だからこそ、困難や試練の中でも感謝する理由があります。大変だということばだけを言い続ければ、もっと大変で厳しくなります。神を信じ、信頼する告白をし、すべてに感謝することを始めてみてください。その時から変化が始まるでしょう。感謝は現実を否定するものでも、逃げるものでもなく、強い現実の認識であり、神の救いと介入に対する強い信仰、そして善良な神に対する確信の表れです。

感謝がなければ夫婦関係、親子関係、人間関係、神との関係が正常に機能することができません。感謝がない人には、人間関係や健康、神との関係などに問題が発生する可能性が高いです。ほとんどの病気は、感謝がないことが原因だとも言われています。逆に、感謝は自分を癒す薬であり、乾いた感情の潤滑油であり、人との関係を結ぶ接着剤でもあります。感謝は自分の人生に価値を与え、人間関係を強化し、神との関係を新しくする、この世界に存在する最高の名薬です。感謝の言葉は人間の言葉の中で最も強力なエネルギーを持っています。あらゆる病気、精神病、身体の病気を癒す力があります。また、あらゆる否定的なエネルギーを吸収する能力もあります。感謝は最高の生命の言葉であり、人を生かし、幸福にする力を持っています。

イエス・キリストによる恵みと感謝があなたの心に満たされることを祈ります。そのためには、まずこの神からの救いの恵みと愛を受けてみること祈ります。

テサロニケ人への手紙第一 1章 5節 なぜなら、私たちの福音があなたがたに伝えられたのは、ことばだけによったのではなく、力と聖霊と強い確信とによったからです。また、私たちがあなたがたのところで、あなたがたのために、どのようにふるまつたかは、あなたがたが知っています。



十字架の愛の福音は、ただのことばだけではなく、大きな力を持っています。この福音の話を聞いて、イ

エス・キリストを受け入れると、神の御霊がその人の心の中に入ってくれます。そして、その御霊は永遠にその人とともにいて、その人を助け、導いてくださるのです。また、イエス・キリストを信じた方には、奇跡が起こったり、恐れや不安、虚しさがなくなったりします。そして、確信や勇気、希望やビジョン、目標をもって歩むことができるのです。さらに、イエス・キリストの力によって、悪魔や迷信などからも解放されるようになります。いつも確

信がなく不安定だった人が、イエス・キリストに出会うことによって、大胆さと確信を取り戻すようになります。人生の希望や目標を失くしさまよっていた人も、イエス・キリストに出会って生き生きとした人生を送っています。自分の価値や存在に対する不安から解放され、新しい人生を生きるようになった人も多くいます。あなたもこの方を通して、新たな人生を手に入れることができます。

**ピリピ人への手紙 4章13節** 私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。

これは有名な信仰者、パウロの告白です。彼は神の力によって、何でもできると話しています。同じように、私たちが神を信じるようになると、私たちにはどんな問題や苦しみをも乗り越えられる力が与えられます。それでこのパウロという人は、自分の弱さこそ、神の力によって強さに変わると、大胆に語っています。この社会では、弱さとは恥ずかしいもので負けの象徴であり、わたしたちはその弱さに悩み、場合によってはそういう自分を憎むようになります。

**コリント人への手紙 第二12章9節** しかし、主は、わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、「わたしの力は、弱さのうちに完全に現われる」からであると言わ

れたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。

パウロは、弱さこそ強さであるという「弱さの美学」をもって、自分の弱さを誇っています。弱さを用いて大いなることをなさる神がいるからこそ、わたしたちは高慢な強さより、自分の弱さを誇ることができます。そこまではできなくても、自分の弱さを毛嫌いし、劣等感に陥ることになります。あなたも、イエス・キリストによって自分の弱さをありのままに受け入れ、堂々とした人生を生きてみませんか。



## ⑥ 永遠のいのちに乗り換える・・

テモテへの手紙 第二 1 章 10 節 それが今、私たちの救い主キリスト・イエスの現われによって明らかにされたのです。キリストは死を滅ぼし、福音によって、いのちと不滅を明らかに示されました。



イエス・キリストの十字架の福音には、真のいのち、永遠のいのちに至る道があります。

今も死後も続く、消えることのないいのちです。前述の聖句には、イエス・キリストが死や滅びをなくし、永遠に生きるいのちを与えると約束しています。それはあなたの肉体の命がなくなっても、消えることのない新しい霊的ないのちです。次のみことばによると、キリストを受け入れたあなたは、死後さばかれることがなく、滅びや地獄に行くこともなく、天国で永遠に生きるようになるのです。

ヨハネの福音書 5 章 24 節 まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わし

た方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことなく、死からいのちに移っているのです。

私たち人間は、花瓶に生けられた花のような存在です。外側はきれいで生き生きとしているように見えて、実はその花は根元が切られているので、厳密には死んだものです。しばらくすると、完全に枯れてしまうでしょう。罪を犯した人間は神様から遠ざかり、いのちの根源である神から切られてしまった花に似ています。肉のいのちはあっても、それはしばらくするとなくなってしまいます。そこには真の永遠のいのちはありません。

そこでイエス・キリストは、神様から離れ死んでいく私たちを、永遠に生きることができるようになると、神様の永遠のいのちに接ぎ木をしてくださいました。それは、十字架の上で死ぬことによって完成されたのです。これこそが、永遠のいのち、真の救いなのです。聖書は人間が死んだとしても、靈は永遠に生き続けると話しています。この死後の救いと新しいいのちこそが、最後まで残るものです。死後が分からぬからといって放置するのではなく、聖書の話に耳を傾けるほうが、もっと安全ではないでしょうか。

人間は誰もが永遠に生きたいと願うのです。そしてどうせ生きるならば、苦しみではなく豊かに生きたいと願うで

しょう。これが人間の願望ではないでしょうか。しかし多くの人は、この世だけがすべてだと勘違いをし、死後のこととをあきらめているのです。聖書には、人間は永遠に生きる存在だと教えています。私たちは勝手に自分の永遠のいのちをあきらめはなりません。つまり、私たちはこの世だけを考えて生きるのではなく、永遠を考えて、生きていかなければならぬのです。

聖書は死後には、大きく2つの生き方だけがあると教えています。1つ目は、この世での罪から赦され、イエス・キリストの十字架を通して救われ、永遠のいのちをもつて、神様が用意された天国で生きる生き方です。2つ目は、悪魔（サタン）のような存在を罰するために設けられた地獄で、死後悲しく痛ましい永遠を送る、苦しい生き方です。人間のいのちには限りがあり、七〇年か八〇年走ると、終わりを迎えるようになります。すなわちあなた的人生列車は、最後には死という壁にぶつかり、燃えつきてしまふということです。壁に激突して亡くなる前に、あなたが永遠のいのち、救いの列車に乗り換えることを願うばかりです。生きている今が、あなたの死後の行方を決める大事な、ゴールデンタイムです。このゴールデンタイムを見逃してしまうと、あなたはいのちが助かるチャンスを失うことになります。

この神様が用意した救いの列車はあなたを天国に導き、永遠のいのちを楽しむようにしてくれるでしょう。この救いの列車に乗り換えるチケットは、お金や人間の努力では買うことができません。神様はあなたが天国に行けるようにと、救いの列車のチケットを、イエス・キリストの十字架での死という尊い代価を払って、用意してくださいました。この神様からのチケットのプレゼントは、感謝をもってただで受け取ればよいのです。今は半信半疑かもしれません、そのチケットをもらうほうが、賢い生き方であると断言できます。要らないのならば、後で捨てればよいのです。いつ衝突して終わりを迎えるか分からない、不安定な死の列車から、永遠のいのちが与えられる天国行きの列車に乗り換えることを祈ります。

テモテへの手紙 第二 4 章 18 節 主は私を、すべての悪のわざから助け出し、天の御国に救い入れてくださいます。主に、御栄えがとこしえにありますように。アーメン



イエス・キリストの福音には、死んだ後天国に入れられるという、祝福の未来が約束されています。死んでも生きるという

究極の喜びと希望です。人間は死んだらすべてが終わりではありません。死んでから、天国か地獄のどちらかで永遠を過ごすことになるのです。死後、あなた自身が無になることや、自由になることは保障できません。自分で行き先を決めることもできません。聖書には、ある者には「永遠の滅びの火に入れ」と言われ、ある者には「きょうあなたはわたしとともにパラダイスにいる」と言われる場面があります。

もしもあなたが、死んだらすべてが終わると思っているならば、それは大きな誤解です。この誤解の結果は、あなたの人生において取り返しのつかない、致命的なものとなる可能性があります。人間は、死後のことあまり考えたくないでしょう。また多くの人は、地獄がないことを願っています。それは、地獄が存在していないほうが、今の自分にとって都合が良いからです。しかし、願望はあくまでも願望に過ぎません。根拠のない願望に頼って生きるよりも、全世界で最も読まれている聖書の教えを土台にして今を生きる方が、より賢明な選択ではないでしょうか。死は終わりではなく、永遠への出発であり、本番の始まりに過ぎないという教えに、耳を傾けてはいかがでしょうか。

かたや天国は、想像を超えた喜びと恵み、自由があり、もはや涙も痛みも死も恐怖もないところです。イエス・キリストはその素晴らしい、ことばでは表現できない天国に、あなたを迎えるために十字架で死なれたのです。それに対し、地獄は弱肉強食が横行し、悪魔の支配と横暴、消えない苦しみと悲しみ、そして後悔と涙、うめき声があふれているところです。そこには、自由がなく、苦痛から逃れようと自ら死を選ぶ権利や逃げ口も、かすかな希望さえもありません。どんなことがあっても、あなたの死

後が地獄、すなわち滅びの国に行くことだけはないようになると願います。

イエス・キリストは、あなたが救われ、この世だけではなく死後に至る永遠まで、天国で神とともに豊かに生きることを願っておられます。そのため、自分では救われることのできないあなたのために、イエス・キリストご自身があなたの罪を背負って、十字架で死なれました。だからあなたは、このイエス・キリストを自分の罪やさばき、滅びからの救い主として認め、受け入れることができるのであります。この福音の話は、いわば神から人間に送られた愛のプロポーズです。このプロポーズは相手が受け入れて初めて成立するものです。この愛が、神から人間への片思いで終わってしまうのは、残念でなりません。

今、イエス・キリストがあなたの心の外で、あなたの心の扉を叩いています。それは、あなたが心の扉を開いて、キリストを受け入れるようにと願っているからです。

**ヨハネの黙示録 3章 20節** 見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

もし、あなたが自分の罪からの赦しと救いが必要だと感じているならば、あなたの心の戸の外に立ってたたく、イエス・キリストを受け入れることを心からお勧めします。具体的には、次の内容をそのまま読みながら祈ることで、イエス・キリストからのプロポーズに答えることができるのです。もちろん、受け入れるかどうかはあなた自身の自由な選択です。しかし、この小さい選択は、あなたの永遠にまで影響する、非常に重要なことです。ただ、この祈りには、まず自分の罪の告白と悔い改めが必要です。心の準備ができた方は、敬虔な姿勢をとって、以下の文章を読みながら祈ってください。

### ・・・イエス様を受け入れる祈り・・・

“今、私は自分が真の罪人であることを知りました。  
その罪によって、自分の人生には悪魔からの強い攻撃  
人生の不安や恐れ、虚しさを感じていたことを知りました。  
私は今までの自分の罪を告白し、人生の方向をあなたに向け直します。  
こんな私の犯した罪の刑罰を身代わりとなって背負い、十字架に架かり、  
私に赦しの道を備えてくださったことを感謝します。  
今私は、私の罪のために死んでくださったイエス・キリストを  
私の救い主として認め、受け入れたいと思います。  
どうぞ、私の心に入り、私を助け導いてください。  
イエス・キリストのみ名によってお祈りします。アーメン”

あなたは今、どのような結論を出したでしょうか。イエス・キリストを受け入れたならば、それは輝く永遠への一步を踏み出したことになります。本当に素晴らしい決断をされたと思います。これからは、教会へ行き、そこで礼拝や聖書の学びなどを楽しむことをおすすめします。しかし、もし受け入れなかったとしても、それはそれであなたの真剣な選択として尊重すべきでしょう。いつかまた、受け入れる時が来るかもしれません。どちらであれ、これからもあなたが、このイエス・キリストの福音に触れ続けていかれることを願っています。

## イエス・キリストにある7つの祝福

2020年5月

著者 姜 錫在（カン スッヂェ）

JOY CHURCH 牧師

発行 日本国際宣教会(ENM)

〒812-0053 福岡市博多区東公園四の五 (JOY CHURCH)

Tel: 092(643)5534 Fax: 092(643)5536

E-mail: joyskan@gmail.com

ホームページ: <http://www.joychurch.jp>